

円安こそが日本を救う唯一最強の手段 フジマキ・ジャパン社長 藤巻健史氏

2012/2/23 7:00 | 日本経済新聞 電子版

私はこの十数年間、「円安政策こそが、日本を救う唯一かつ最強の景気対策だ。まずは円高是正。それがなければどんな政策を打とうと、すべては無駄」と主張してきた。その提案は受け入れられず、無策のまま、ずるずると円高が進んでしまった。長い間、マーケットの真ん中において巨額のお金を動かしてきた実務家の「実体経済から離れた為替は修正できる」という主張は無視され続けた。残念至極。

2月14日に日銀は追加緩和策と物価目標政策を発表したが、これで景気回復とはいかないだろう。そもそも金融政策とは金利を上げ下げすることだ。昔の金融の本にはそれしか書いてなかった。ゼロ金利になって、やるに事欠いて始まったのが量的緩和であり、政治の圧力に負けて無理やり出てきたのが物価目標だ。あの狂乱物価だったバブル真最中の1986年の全国消費者物価指数(除く生鮮食料)は前年比0.3%増、87年は0.5%増でしかない。景気と消費者物価指数には、それほど相関性はない。量的緩和も物価目標も苦し紛れの政策でしかない。政府・日銀は、はるか昔に金利をゼロにしている。すなわち、はるか昔から金融政策を最大限発揮している。財政政策も同様だ。それでも景気は全く回復していない。為替政策を発動しなかったのだから、当たり前と言えば当たり前ののだ。



「10年間、無策のままずるずると円高が進んでしまった」

読者の皆さんの
コメントを
募集中です
*会員限定

円高とは「円で売るモノ、サービス、労働力」の値上げを意味するのだが、景気が悪いのに、値上げを継続したら、つぶれてしまう。そんなことは、自分で商売をしていれば自明である。

同じ品質の競合商品との価格差が、5%や10%であれば、サービスやデザイン、営業力などで太刀打ちできるかもしれない。もしくは必死の努力でコストを下げて、同じ販売価格にできるかもしれない。しかし、それ以上の価格差の克服は難しい。円で売るモノ、サービス、労働力は固定相場制の360円時代から4倍以上の値上げをしてきたことになる。それほどの値上げをしたら、国際競争力は失われる。日本人の労賃もそんなに値上げをしたら、国際競争力を失い、外国人に仕事を取られる。国内空洞化で仕事がなくなるということだ。国際競争力がなくなった企業は海外から利益を得ることができず、日本人も国内で仕事を失うのだから、いくら金融や財政で国内景気を刺激しても、消費は盛り上がり、景気回復など土台無理な話なのだ。

それどころか、この十数年間、景気対策になると誤解して、効果のないままに財政を垂れ流し的に使ってきた。最近では「格差是正は内需拡大に通じる」と、これまた誤解して、ばらまきを急増させた。おかげでこの十数年間で国の借金は3倍にも膨れあがり1000兆円という莫大な額になってしまった。10兆円ずつ返しても100年かかる大借金だ。10兆円ずつ返すためには、平成23年度当初予算でいえば、歳入予想が48兆円だから38兆円しか使えないはずなのに92兆円も使おうとしているのだから、この大借金は200年たっても300年たっても返せるはずがない。しかも、今はゼロ金利だからいいようなものの、金利が上昇し始めたら、支払金利が増えて財政は目も当てられなくなる。ここまで借金が大きくなると、景気回復に伴って金利が上昇すれば、支払金利増は税収増の比ではない。

■解決策は大増税だけ 5~10%の消費増税では焼け石に水

こうなつては、もう大増税しか解決策は残っていない。もっとも大増税と言っても、所得税や消費税率の大幅上げなどというものではない。5%や10%の消費増税では焼け石に水だ。現在、消費税5%で約10兆円の税込だから、1%の消費税上げで約2兆円。したがって単年度の44兆円の赤字の穴埋めには消費税22%が必要だ。100年で借金を返すとして、毎年返済資金用の10兆円のために、さらに5%の増税が必要になる。

加えて1000兆円の借金なら、金利が1%上がるごとに支払金利が(すぐにではないが)10兆円増える。それを賄うために、さらに5%(1000兆円の借金×1%÷2兆円)の増税が必要、などとラフに考えていても、消費税を明日から30%以上上げるしかない。どう考えても、それは世間が是認しないだろう。

となれば「インフレ税」という大増税策しかないとは私は考える。だからといって、私は「消費税を上げなくていい」と言っているのではない。消費税は大幅に上げるべきだ。無理だとわかっていても、最後まで努力をするのが政治家の責務である。

税金とは、悪い言い方をすれば「国民から国家への富の移行」である。一方、インフレとは「債権者から債務者への富の移行」だ。わかりにくければ皆さんがタクシーの乗務員で、銀行から借金している債務者と仮定すればよい。今、1000万円借りると毎月の元金返済は大変かもしれないが、タクシー初乗り2キロメートルが100万円のインフレ時代となれば、2キロを10回走って稼いだお金で借金を簡単に返済できる。

一方、汗水垂らして10年間で100万円ためた人(債権者)は、1回タクシーに乗っただけで財産を失ってしまう。したがってインフレとは「債権者から債務者への富の移行」なのだが、今、日本で最大の債務者は国であり、債権者は国民だ。ハイパー・インフレとは、税金という形こそとっていないが、政府が国民の富を召し上げるという点で同じだ。

■財政破綻、その先のハイパー・インフレは近い

ここまで財政赤字がたまった以上、財政破綻は近いとは私は思っている。財政破綻になれば、政府機能のシャットアウト回避のために、日本銀行が「国債引き受け」という禁じ手を取らねばならなくなるだろう。そこでハイパー・インフレが起こると思うのだ。

「今すぐにでも日銀は国債を引き受けろ」と主張する論者がいるが、日銀の国債引き受けは、歴史からも明らかなようにハイパー・インフレを引き起こす。だから財政法第5条で禁止されている。ハイパー・インフレは経済弱者を直撃する。消費税上げよりはるかに逆進性の強い悪政だ。国民生活を破壊する点では、財政破綻と同じだが、それを政策として採用せよ、と主張するには無理がある。「財政を今、破綻させよ」と言うのと同じだからだ。あまり良い例ではないが、福島第1原発で高濃度汚染水をためるために、低濃度汚染水を海に流さざるを得なかった。あれは禁じ手もいいところだが、あれしか選択の余地がなかった。

それと同様、「日銀の国債引き受け」は政策として掲げるべきものではないが、結果として日銀はそこに追いやられると思っている。借金ができなくなって(=国債が入札で完売できなくなる)、子ども手当も国家公務員の給料も福島の復興費用も払えなくなり、かといって政府機能をシャットダウンさせるわけにはいかないからだ。

ハイパー・インフレとは、1万円札でほとんど何も買えなくなることだ。すなわちお金の価値が下がるこ

とだ。日本ではお金とはドルでもユーロでもない。円だ。ハイパー・インフレとは円の暴落を意味する。私が、近著「なぜ日本は破綻寸前なのに円高なのか」(幻冬舎)をはじめ、いろいろなところで「円資産からドルを中心とした先進国通貨資産にシフトしたらどうですか？」と提案しているのは、そのような理由からでもある。

■韓国が復活したのはウォン安のおかげ

この段階に至っては、ハードランディングは避けられないと思うが、絶望する必要はない。韓国を見てほしい。1997年の通貨危機後の韓国は「地獄を見た」「あの国は終わった」と言われていたのだ。それが、ここまで回復したのは、ひとえにウォン安のせいだ。当初はつらかりうが、時間の経過とともに、円安による国際競争力の回復で日本経済は急速に立ち直る。ひょっとすると昔のように、世界の工場となるかもしれない。今ある閉塞感は霧散する。

ハードランディングという深く暗い闇の向こうに明るい未来があるのならば、人は頑張れるはずだ。先の敗戦時と同じである。逆に言えば、明るい未来をエンジョイするためにもハードランディング時を、どう生き延びるかが重要だ。地震なら、いくら備えをしても、最後は運を天に任せざるを得ないが、財政破綻に伴うハードランディングは、勉強さえしておけば確実に乗り越えられる。今こそ、経済、資産運用の勉強をするべき時期なのだ。

藤巻健史(ふじまき・たけし) 1950年生まれ、一橋大卒、三井信託銀行、モルガン銀行など経て、フジマキ・ジャパン代表取締役。モルガン銀行時代はディーラーとして抜群の実績を上げ、東京支店長に。伝説のトレーダーと呼ばれる。ジョージ・ソロス氏のアドバイザーも務める。「外資の常識」(日経BP社、のち日経ビジネス人文庫)など著書多数。

読者からのコメント

まさくんさん、30歳代男性

為替相場とはそもそもその国の経済的なファンダメンタルを反映した結果であって、国が個人が意図して為替を長期にわたって安く維持する方法は無いと考えています。藤巻さんの考えではそこを如何考えているのでしょうか？そもそも不可能な円安維持を前提にしたお話であれば、お話の根底が崩れるので机上の空論では無いかと思いました。

YAMAさん、50歳代男性

藤巻さんの主張・解説に非常に共感しています。その上で、改めて「日本国債は国内引き受けがほとんどだから、暴落の危険性は無い」という主張に対して、どう反論されるかが知りたいです。

たっちゃんさん、50歳代男性

全くその通りだと思いますが、政策として円安に誘導する実現可能な具体策はあるのでしょうか？現在の政府は、「下手の考え休むに似たり」状態ですが、できる政府なら、どんなことを実施してくれるのでしょうか。

藤巻健史 フジマキ・ジャパン社長のブログでは、読者の皆様からのご意見、ご感想を募集しております。
[こちらの投稿フォーム](#)からご意見をお寄せください。*会員限定

[マネーブログ・カリスマの直言トップ](#)

読者からのコメント